

猫の足あと視察 ヒアリングシートまとめ

1 来塾する子どもについて

* 概要

- ・活動を始めた当初は、中 3 の生徒の進学のための無料の学習支援塾だった。
- ・現在は小学生宿題クラブ（毎週月・木曜日 15 時 30 分～17 時 30 分 おやつ付き）で終わったら遊びも。実際には遊びにくる感覚でやってくる子どもが多く、宿題をすませてから遊ぶように言っている。小学生の居場所としての役割。向台小、上向台小、田無小、保谷二小、柳小、東伏見小あたりから来ている。
- ・子ども家庭支援センターが連れてくる子どももかなりいる。親の同意を得て、ここに案内してくる。
- ・中学生はもともと四中の生徒を教えていたが、現在は四中、二中、一中、保谷中から来ている。
- ・中 3 勉強会（毎週月曜日 19 時～20 時 45 分 18 時 30 分から夕食提供）、中学生勉強会（毎週木曜日 19 時～20 時 45 分 18 時 30 分から夕食提供）を行っている。
- ・中学生は塾に行っていない、都立高校をめざす学習意欲のある生徒を募集している。
- ・最近ではネットで調べてきたり、不登校だが、ここには来る子もいる。

* 来塾している子ども

- ・ひとり親の子ども
- ・外国籍の子ども
- ・兄弟の多い家庭の子（例：4 人の子ども全部に関わったことがある）
- ・虐待されている子ども
- ・貧困家庭の子ども
- ・近くの都営住宅の子
- ・生活保護を受けている家庭の子（マル秘で）
- ・不登校の子
- ・保谷中の「のびる学級」の子
- ・通塾する環境だけでなく、学習する環境にない子も多い

2 活動の現状

- ・2016 年 3 月現「猫の足あと」ハウスを建設。1 階には教室とキッチン、2 階には賃貸の部屋を 5 つ設けて、小中学校の学習支援と若者の自立支援をすすめている。食事の提供も行う。
- ・教室は、小学生の居場所事業、中学生への学習支援のほかに、教育カフェ（親対象）、学習会、研究会、懇談会、子どもの工作教室や理科実験教室なども実施している。
- ・中学生には進学指導も（都立高校入試のための手伝い。今年は 7 人くらい）無料で実施している。
- ・中学生の支援が原点だが、今では小学生に宿題クラブ（おやつと遊びの居場所作り週 2 回）もやる。

- ・小学生は塾形ではなく、いつでも自由に来所できる
- ・通塾形態はまちまちである。

3 活動を始めた理由・目的

- ・教員時代、子どもをめぐるいろいろな家庭状況をみてきて、なんとか支援できないか考えていた。一番手っ取り早いのが自宅を開放して勉強を教えたり、夕食を提供することだった。ちょうど学生だった息子、娘も協力してくれた。
- ・当初は四中にチラシを配った。よく知った中学生が知人や関係者にチラシ配りをして始まったが、2年目からは口コミで広がっていった。
- ・さらに定年を迎え、多くの子ども、若者を支援できるよう退職金や貯金をつぎ込んで、このハウスを建てた。夫の支援もあった。
- ・2016年3月からハウスの運営も始めた。
- ・子どもを支援するのはもちろんだが、自分の居場所、生きがいにもなっている。

4 活動の効果として感じていること

- ・「やってあげている」という感覚ではなく、自分自身が癒され、救われているように思う。
- ・全部自分が引き受けるのではなく、いろいろなスタッフが子どもと関わる。そんなことでいろいろな人とつながり、地域の人もおかずを差し入れてくれたりと輪が広がっている。いい人はたくさんいると実感している。
- ・地域からの支援ありがたい
- ・またここで学んだ子どもが、将来教員をめざすなど成長し、教えに戻ってくれることが一番うれしい。支援する側される側ではなく教える学生にとっても学びの場になっているのも効果といえる。
- ・中学時代に来ていた子が大学生になり、今では教える立場で手伝ってくれている。
- ・地域でつながってほしい。
- ・応援してくれる人や子がいて、わたしも支えられていると感じる。
- ・やっている感じではなく、来てくれたというすくわれ感がある。
- ・しげあてるではなく、することにより学んでいる。

5 困っていること

- ・学習塾のほうでは、特にない。
- ・来所している振りをして実際は来ていない子がいる。中1、中2が多いが、中3になると必ず来るようになる（入試のため）。
- ・2階に住んでいる若者たちはそれぞれいろいろな過去や辛い状況を経ているので、住んでいる若者同士でのトラブルがある。
- ・居住している子どもたち（困難を抱えている子、清掃ができない子、夜間うるさくして眠れない、児童養護施設を出た子、経済状況も厳しい子、摂食障害をもつ子も。）をどう福祉をつないでいくか、あまり知識もないので、困っている。
- ・各種ネットワークに乏しいので、こうした若者を支援するネットワークを知りたいし、どんな人的資源があるか知りたい。

- ・近隣も静かなところなので、近所に迷惑をかけないように注意している。
- ・ルール決めは他の人に指導してもらっている。

6 自己資金で行っていることへの周囲の理解の得方

- ・自己資金をはたいて今のハウス、事業を行っている。幸い新聞に載ったので、かなりの寄付援助があった。
- ・「子どもの未来応援国民運動」の助成金もとれたので今は大丈夫だが、助成金は単年度支給なので、今後も支援を探さなくてはならない。「心のビタミン研究所」が現在支援を申し出てくれていて、NPOにしてホームページなど作成してくれるようだ。
- ・市内でも子ども食堂の活動など始まっていて、現物支給で持ちこみ支援をしてくれる人もいる。
- ・2階の住人たちはお米などは階下のものを使ってよいようにしているが、基本家賃は取る。学習を教えに来てくれる学生さんには1回2000円を報酬として渡す。彼らもバイトをせずここに来てくれるわけだし、そのほうが教える責任感がでる。
- ・新聞に載ったことから寄付してくれる人がいる。ありがたい。
- ・経済的に支援してくれる方はありがたい。NPOにする、ホームページにのせる等の助言もある。

7 支援してほしいこと

- ・助成金をもらったりしていると、とかく行政から「目標」や「効果」を求められる。しかし支援している子どもはそういった効果がわかりにくい子どもたちなので、特に2階の住人たちにはつらいものがある。
- ・すぐに効果の出にくい、制度の隙間にある状況の子どもを支援していることをわかって欲しい。自分自身どんな行政支援、福祉的支援があるか知りたいし、相談にもものってほしい。
- ・学習支援、食材の支援、資金の支援、ボランティアでの支援（おじいちゃん・おばあちゃん世代のボランティア。若者のボランティア）がありがたい。
- ・永続的支援があるとありがたい。途切れることのない学生からの支援がほしい
- ・同じ理念を持つ組織とつながりたい

8 今後の展開

- ・子どもたちが住んでいるその地域で、このハウスのような支援が行えることが望ましい。
- ・空き家や空き部屋を、ぜひ子ども若者支援の場にしてほしい。
- ・青少年問題協議会や民生委員児童委員協議会などとのネットワークができるといい。
- ・いろいろなところに子どもの居場所がたくさんでき、ネットワークができて、それぞれがつながっていったら、という希望がある。
- ・近隣とは全てを理解してくれる関係づくりが必要である。
- ・不登校の親のつながりと、学校とのつながりを強く望む。(元教師のため、こちら側からは出向かない方針)

委員考察（感想、意見）

- ・現在置かれている各家庭の経済的状态、または教育的な遅れを取り戻すという積極的な観点から、どの子どもたちにも教育の機会を与えたいという主宰者の気持ちが、私財を活用して、また、教育者としてのつながりや家族の協力のもとに学び塾を立ち上げたという熱い情熱は、お話を伺っていて強く共鳴するところがあった。
- ・本来ならば、これは公的教育機関としてなすべきと考えるのは誰しもであろうが、地域に密着したこのような場所の広がりに対し、少なくとも何らかの公的助成があったらと考える。
- ・自己資金で行っていることへの理解や活動内容の周知は各専門的分野でのネットワークの活用や人的支援等、参加型支援の重要性が感じられた。また、それによって寄付等の金銭的支援が寄せられる可能性もあり、経済的余裕、心身的余裕が生まれ、活動の幅も出でくであろう。
- ・今後、若年層だけではなく、子育て世代の父母や、元気で経験豊富な高齢者の集まりの場所として展開していくことも広がり的一步と考える。
- ・先生の夢が形になった施設で、とても温かさを感じた。
- ・聖ヨゼフホームを出た子どもがこういった場所で暮らせたらとてもいいなと思った。
- ・信頼ができる大人がそばに居てくれるのは、精神的な安心につながる。
- ・地域の方の理解もあり、支援をしてくれる方もいるので、長くこの場所が継続できるよう、行政もしっかり支援していく必要があると思った。
- ・制度の狭間にある状況の子どもたちを支援している姿勢に敬服する。
- ・居場所として、また学習支援も独自性を持っての方針実施に努力されている様子。持続性のある支援の必要は理解できる。
- ・岸田さんのお人柄に感銘を受けた。調布市でお寺を借りて無料の学習塾を展開されている方も中学校の元先生で、学校時代に手をかけてあげられなかった子どもたちのために、一念発起されて事業展開された。
- ・西武新宿線と池袋線の間の中町付近と、池袋線北側のひばりが丘～下保谷あたりにそれぞれこのような事業が展開されるとよいと思う。子ども家庭支援センターも随分助かると思う。